

発刊にあたって



美唄市長 滝 正

本年は、先の戦争が終わって五十年目にあたり、また本市が核兵器廃絶平和都市宣言を行ってから十年目を迎えるという、大きな節目となる年です。

かつて、十五年にわたる悲惨な戦争がありました。いま、私たちは、戦火のあったことも遠い記憶として平和な日々を過ごしていますが、この平和は不幸な戦争を乗り越えて築き上げたものであることを忘れてはいけません。

昭和六十年に本市は、核兵器廃絶平和都市を宣言しました。これは、広島、長崎に原爆が投下され、未曾有の犠牲者を出した日本の経験を踏まえ、人類の生存の脅威である核兵器の廃絶を強く願い、世界の恒久平和が確立されるよう力を尽くすことを誓ったものです。この誓いは、全世界の人々と手をたずさえあい、実現していかなければなりません。

ここ美唄でも、実際に戦争の時代を体験した人は年々少なくなってきており、いま、まさに戦争体験は、風化しようとしています。このようなときこそ市民の皆さんの貴重な体験を次の世代に伝え、平和の尊さを改めて考えるべき時期なのではないでしょうか。

ここにお寄せいただいた美唄市民の貴重な体験をこのような形で記せたことは、誠に意義深いことであり、大切に語りついでいかなければならないものだと考えております。

この文集の趣旨をご理解いただき、寄稿してくださった皆さん、並びに編集のご苦勞をいただいた編集委員の皆さんにこの場を借りて心からお礼を申し上げます。

平成七年 秋